

(資料2)

平成28年度 保護林区分の見直しに係る調査 調査報告

近畿中国森林管理局

1 森林生態系保護地域の検討

○設定目的

我が国の気候帯または森林帯を代表する原生的な天然林を保護・管理する

○設定の基本的考え方

- ① 我が国の気候帯または森林帯を代表する原生的な天然林を主体とした、森林生態系としてのまとまりを持つ区域であって、原則として2,000ha以上の規模を有するもの
- ② 島嶼、半島等特殊な環境にあっては、原則として500ha以上の規模を有するもの

○取扱い

〔保存地区〕

原則として人為を加えず自然の推移に委ねる。

〔保全利用地区〕

原則として人為を加えず自然の推移に委ねる。(人工林は天然林への移行を図る)

○近中局の方向性

原則として、現行の森林生態系保護地域を移行させる。

〔課題1〕

白山、大杉谷、大山の各森林生態系保護地域3箇所が該当するが、このうち、大杉谷森林生態系保護地域は面積が1,391haで、新たな設定の基本的考え方の①の面積に満たないが、森林生態系保護地域へ移行させる。

2 生物群集保護林の検討

○設定目的

地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理する

○設定の基本的考え方

- ① 自然状態が十分保存された天然林を主体とした、地域固有の生物群集がまとまりを持って存在する区域であって、原則として300ha以上の規模を有するもの
- ② 自然状態が十分保存された天然林を中心に、地域固有の生物群集が存在し、今後、復元の取組が見込まれる森林を周辺部に包含する区域であって、原則として1,000ha以上の規模を有するもの

○近中局の方向性

原則として、現行の森林生物遺伝資源保存林を移行させる。

〔課題2〕

犀川源流、黒蔵谷、池郷の各森林生物遺伝資源保存林3箇所が該当するが、そのほかにも、面積300ha程度以上の規模を有する保護林が6箇所設定されている。

①300ha以上の保護林

- ・千丈平ブナ植物群落保護林
- ・上谷山ブナ・ミズナラ植物群落保護林
- ・氷ノ山・三の丸ブナ植物群落保護林
- ・三国山ブナ植物群落保護林
- ・宮島特定動物生息地保護林

②300ha未満の保護林

- ・鳴川山ウラジロモミ・コメツガ植物群落保護林

3

3（1）希少個体群保護林の検討

○設定目的

希少な野生生物の生育・生息に必要な森林を保護・管理する

○設定の基本的考え方

次の1項目以上に該当する個体群を有し、原則として当該個体群がその存続に必要な条件を含む5ha以上の区域

- ① 希少化している個体群
- ② 分布限界域等に位置する個体群
- ③ 他の個体群から隔離された同種個体群
- ④ 遺伝資源の保護を目的とする個体群
- ⑤ 草地、湿地、高山帯、岩石地等、特殊な立地条件の下に成立している個体群
- ⑥ 温暖化等の影響により将来的に消失が懸念される個体群
- ⑦ その他保護が必要と認められる個体群

4

3(2) 希少個体群保護林の検討

○近中局の方向性

原則として、現行の林木遺伝資源保存林、植物群落保護林、特定動物生息地保護林のうち、面積5ha以上のものを移行させる（生物群集保護林への移行を検討すべきものを除く）。

〔課題3〕

林木遺伝資源保存林21箇所、植物群落保護林44箇所、特定動物生息地保護林6箇所が該当するが、このうち面積5haに満たない小面積の保護林が6箇所設定されている。

- ・野鹿谷シャクナゲ植物群落保護林
- ・大又文政スギ植物群落保護林
- ・四ヶノ仙奥山高地湿原等植物群落保護林
- ・恵下谷山コウヤマキ植物群落保護林
- ・鷹ノ巣山ブナ植物群落保護林
- ・滑山モミ植物群落保護林

5

4 保護林の取扱いの検討

○基本的考え方

原則として、現行の特定地理等保護林、郷土の森は廃止する。

廃止後は、他制度の活用や施業上の配慮を行う。なお、特定地理等保護林の設定対象となっていた「特異な地形、地質」を保護林として保全管理していくことで持続性が担保される個体群等が存在するのであれば、希少個体保護林に位置づけることも可能。

○近中局の方向性

林野庁から原則廃止の方針が示されているが、希少個体群保護林への移行の可否も含めて検討する。

〔課題4〕

特定地理等保護林が1箇所該当する。

- ・岩見山特定地理等保護林

6

目 的

平成27年度に保護林制度が改正され、改正前の保護林区分から新たな制度での保護林区分へ見直すこととなった。保護林区分の見直しに当たり、保護林の状況を把握するため調査を実施し、調査結果を基に新たな保護林区分の検討を実施する。

検討内容	該当保護林
生物群集保護林の要件を満たすか否か	千丈平ブナ植物群落保護林 上谷山ブナ・ミズナラ植物群落保護林 氷ノ山・三の丸ブナ植物群落保護林 三国山ブナ植物群落保護林 宮島特定動物生息地保護林
希少個体群保護林の要件を満たすか否か	岩見山特定地理等保護林
保護林に隣接する林分が拡充可能か否か	野鹿谷シャクナゲ植物群落保護林 鷹ノ巣山ブナ植物群落保護林 鳴川山ウラジロモミ・コメツガ植物群落保護林
隣接する保護林との統合が可能か否か	四ヶノ仙奥山高地湿原等植物群落保護林
保護林林況の確認	大又文政スギ植物群落保護林 恵下谷山コウヤマキ植物群落保護林 滑山モミ植物群落保護林

平成28年度 保護林区分の見直しに係る調査内容一覧

番号	保護林区分	保護林名	計画区	面積 (ha)	基礎調査		現地調査										備 考	
					資料 調査	保護 林情報 提供	概況 調査	既存 プロット 数	新設 プロット 数	森林調査			動物調査			シカ 食害 調査		全踏 調査
										毎木 調査	植生 調査	定点写 真撮影	哺乳類 (自動 撮影) 調査	直接観 察/痕 跡調査	昆虫 調査			
1	植物群落保護林	千丈平ブナ植物群落保護林	加賀	856.88	○		○	2		2	○	○	○	○	○	○	○	生物群集保護林要件を満たすか
2		上谷山ブナ・ミズナラ植物群落保護林	湖北	573.74	○			4					○	○	○	○	○	生物群集保護林要件を満たすか
3		氷ノ山・三の丸ブナ植物群落保護林	揖保川・円山川	384.75	○			6					○	○	○	○	○	生物群集保護林要件を満たすか
4		三国山ブナ植物群落保護林	天神川・千代川	319.03	○			5					○	○	○	○	○	生物群集保護林要件を満たすか
5	特定動物生息地保護林	宮島特定動物生息地保護林	太田川	1,065.93	○		○		3	○	○	○	○	○	○	○	○	生物群集保護林要件を満たすか
6	特定地理等保護林	岩見山特定地理等保護林	高梁川上流	29.64	○		○		3	○	○	○	○	○	○	○	○	保護林要件を満たすか
7	植物群落保護林	野鹿谷シャクナゲ植物群落保護林	若狭	4.00	○				2	○	○	○					○	隣接地の拡充検討
8		大又文政スギ植物群落保護林	尾鷲熊野	1.50	○												○	林況確認
9		四ヶノ仙奥山高地湿原等植物群落保護林	円山川	4.41	○												○	隣接する氷ノ山・三の丸ブナ植物群落保護林との統合の可否について検討
10		恵下谷山コウヤマキ植物群落保護林	太田川	1.49	○												○	林況確認
11		鷹ノ巣山ブナ植物群落保護林	瀬戸内	4.04	○				2	○	○	○					○	隣接地の拡充検討
12		滑山モミ植物群落保護林	山口	3.47	○												○	林況確認
13		鳴川山ウラジロモミ・コメツガ植物群落保護林	北山・十津川	249.58	○												○	拡充の可否について検討
合 計 (13箇所)				3,498.46				17	12									

平成28年度保護林区分の見直しに係る調査

千丈平ブナ植物群落保護林

調査地	石川県白山市 千丈ヶ峰、蛇谷国有林
保護林の目的	大笠山、宝剣岳及び千丈平一帯のブナを主体とした天然林の保護
検討内容	生物群集保護林の要件を満たすか否か



毎木調査結果

新規プロット1

No	樹種	本数	本数(本/ha)	(%)	平均胸高直径(cm)	胸高断面積(m ² /ha)
1	ブナ	27	270	30.2	20.7	10.67
2	ナナカマド	3	75	8.4	6.1	0.09
3	ハウチワカエデ	6	150	16.8	6.0	0.17
4	コミネカエデ	14	350	39.1	6.9	0.55
5	リョウブ	2	50	5.6	6.3	0.06
	5種	52	895	100.0	13.9	11.55

新規プロット2

No	樹種	本数	本数(本/ha)	(%)	平均胸高直径(cm)	胸高断面積(m ² /ha)
1	イチイ	4	100	6.5	7.9	0.2
2	ヒメヤシャブシ	7	175	11.4	6.2	0.2
3	ブナ	28	280	18.2	18.6	11.5
4	アズキナシ	1	10	0.6	27.2	0.6
5	ナナカマド	27	675	43.8	7.1	1.1
6	ハウチワカエデ	4	100	6.5	7.5	0.2
7	コミネカエデ	6	150	9.7	6.0	0.2
8	イタヤメイゲツ	1	25	1.6	5.0	0.0
9	リョウブ	1	25	1.6	9.2	0.1
	9種	79	1540	100.0	11.3	14.0

植生調査結果

新規プロット1

階層	植物名	優占度	階層	植物名	優占度
S	チシマザサ	5	H	スゲ属の一種	3
S	オオカメノキ	1	H	ヒメモチ	1
S	オオバスノキ	+	H	ヤマソテツ	1
S	コヨウラクツツジ	+	H	オオカメノキ	+
S	ツルアリドオシ	+	H	コミネカエデ	+
S	ナナカマド	+	H	シシガシラ	+
S	ノリウツギ	+	H	シノブカグマ	+
S	ホツツジ	+	H	ショウジョウバカマ	+
S	ホンシャクナゲ	+	H	ツクバネソウ	+
S	ムラサキヤシオ	+	H	ツバメオモト	+
S	ヤマウルシ	+	H	ツルアリドオシ	+
S	リョウブ	+	H	ハイヌツゲ	+
			H	ヒメアオキ	+
			H	マイヅルソウ	+
			H	ヤマウルシ	+
			H	リョウブ	+

新規プロット2

階層	植物名	優占度	階層	植物名	優占度
S	ハウチワカエデ	3	H	チシマザサ	3
S	アキシバ	2	H	オオイワカガミ	1
S	コミネカエデ	2	H	マイヅルソウ	1
S	オオカメノキ	1	H	オクモミジハグマ	+
S	オオバスノキ	1	H	コミネカエデ	+
S	コヨウラクツツジ	1	H	シシガシラ	+
S	ムラサキヤシオ	1	H	ショウジョウバカマ	+
S	ヤマウルシ	1	H	ツノハシバミ	+
S	ユキグニミツバツツジ	1	H	ツバメオモト	+
S	ツノハシバミ	+	H	ツルシキミ	+
S	ハナヒリノキ	+	H	ヒメモチ	+
S	リョウブ	+	H	ホソバトウゲシバ	+

※小円部、0.01ha内に出現したシダ植物以上記入
階層：低木層＝S
：草本層＝H

※小円部、0.01ha内に出現したシダ植物以上記入
階層：低木層＝S
：草本層＝H

動物調査結果

哺乳類(自動撮影)調査

確認種
ニホンザル
ノウサギ
ニホンリス
ネズミ科の一種
ニホンツキノワグマ
イノシシ
ニホンジカ



ニホンジカ



ニホンザル



ノウサギ



ニホンリス



ネズミ科の一種



ニホンツキノワグマ



イノシシ

動物調査結果

(確認種数計 96種)

直接観察・痕跡調査

石川県RDBは青文字 (4種)

環境省RLは赤文字 (4種)

両方に該当する場合は赤文字とアンダーライン

哺乳類	鳥類	両生・爬虫類	昆虫類・陸産貝類
モグラ科の一種	トビ	カナヘビ	ルリボシヤンマ
ニホンザル	<u>サンバ</u>	シマヘビ	アキアカネ
ノウサギ	<u>クマタカ</u>	ジムグリ	アシゲロツユムシ
ニホンリス	キジバト	ヤマカガシ	バッタ科の一種
ニホンツキノワグマ	アオバト	マムシ	ミンミンゼミ
テン	カッコー	クロサンショウウオ	アカエゾゼミ
<u>オコジョ</u>	ツツドリ	タゴガエル	チツゼミ
アナグマ	ホトトギス	ヤマアカガエル	ツマグロオオヨコバイ
イタチ属の一種	アオゲラ	モリアオガエル	ホシハラビロヘリカメムシ
イノシシ	オオアカゲラ	カジカガエル	ツノアオカメムシ
	コゲラ		カメムシ科の一種
	ツバメ		ツノカメムシ科の一種
	キセキレイ		トウカイコルリクワガタ
	ビンズイ		ルリクワガタ
	<u>サンショウクイ</u>		センチコガネ
	ヒヨドリ		ヒメアシナガコガネ
	モズ		ヨツスジハナカミキリ
	カワガラス		カミキリムシ科の一種
	ミソサザイ		ゾウムシ科の一種
(10種)	コマドリ	(39種)	ミカドアリバチ
			(37種)



オコジョ



ヤマカガシ



クロサンショウウオ

動物調査結果

昆虫調査(ピットフォールトラップ)

(確認種数計 18種)

バッタ類、カメムシ類	コウチュウ類	ハチ類、その他
カマドウマ科の一種 マダラアワフキ	セグロホソクビゴミムシ コクロナガオサムシ白山亜種 (ハクサンクロナガオサムシ) マイマイカブリ クロナガオサムシ オオナガゴミムシ ホシナガゴミムシ マルガタツヤヒラタゴミムシ クロツヤヒラタゴミムシ アカガネオオゴミムシ マガタマハンミョウ ヨツボシモンシデムシ クロガネハネカクシ ハネカクシ科の一種 センチコガネ マヤサンコブヤハズカミキリ	クロスズメバチ
(2種)	(15種)	(1種)

シカ食害調査結果

階層高	シカによる影響							
	既存				新規			
	プロット1		プロット2		プロット1		プロット2	
	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度
高木層	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-
亜高木層	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-
低木層	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-
ササ層	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-
草本層	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-

※ 指標種：トウヒ、ウラジロモミ、リョウブ、イヌツゲ、クロモジ、アオキ
(近畿中国森林管理局における指標種、赤字は分布のあった指標種)

評価結果

項目	評価内容
林分の状態	既存プロット周辺は、過年度調査での林分の主要構成種から大きな変化はなく、健全に遷移していると考えられる。
保護対象種の生育状況	ブナが良好に生育し、下層植生にも保護対象種の生育が確認されていることから、健全な生育状況であると考えられる。
林床植生の生育状況	大きな衰退等は確認されなかった。
動物の生息状況	確認種の多くは、平地から山地に生息する種であったが、ニホンツキノワグマ、アオゲラ、クマタカ等の森林に生息する種やオコジョといった亜高山帯以上に生息する種やブナ帯に生息するトウカイルリクワガタといった保護林を代表するような種も確認された。また、ピットフォールトラップでは、森林の林床を生息場所とする分解系の甲虫類が多く確認されており、多様な動物相が形成されていると考えられる。
気象害	台風等による気象害は確認されなかったことから、健全な状態が維持されていると考えられる。
病虫害	ナラ枯れ等の病虫害は確認されなかったことから、健全な状態が維持されていると考えられる。
獣害	現状では食害は確認されなかった。
土壌浸食度	土壌の浸食は確認されなかったことから、設定当時と変わらず水土保持機能が維持されていると考えられる。

評価(案)
本保護林は、自然状態が十分保存された天然林を主体とした、地域固有の生物群集がまとまりを持って存在する森林であると考えられるため、生物群集保護林の要件を満たしていると考えられる。

千丈平ブナ植物群落保護林の取扱い方針

設定の基本的考え方

- ①地域固有の生物群集がまとまりを持って存在する森林である。
- ②面積は856.88haで、要件の300haを超えている。

よって、生物群集保護林へ移行させる方向で検討する。

平成28年度保護林区分の見直しに係る調査

上谷山ブナ・ミズナラ植物群落保護林

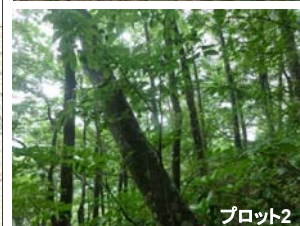
調査地	滋賀県長浜市 上谷山国有林
保護林の目的	日本海型ブナ林の南限付近で、海拔500mからブナ・ミズナラが優占的かつ広範囲に分布するブナ・ミズナラ群落の保護
検討内容	生物群集保護林の要件を満たすか否か



調査区域および調査プロット



プロット1



プロット2



プロット3



プロット4

調査箇所	林班	小班
プロット1	592	い1
プロット2	591	い1
プロット3	586	い1
プロット4	573	に

森林の状況 (H25モニタリング調査より)
日本海型ブナ林の南限付近で、海拔500mからブナ、ミズナラ、コナラなどの高木・亜高木が優占的に生育しており、下層植生はオオバクロモジ、ヤブツバキ、エゾユズリハ等が繁茂している。

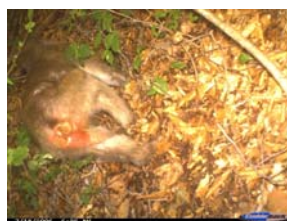
動物調査結果

哺乳類(自動撮影)調査

確認種
ニホンザル
ノウサギ
ニホンツキノワグマ
タヌキ
テン
アナグマ
ニホンジカ



ニホンジカ



ニホンザル



ノウサギ



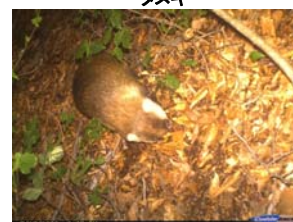
ニホンツキノワグマ



タヌキ



テン



アナグマ

動物調査結果

直接観察・痕跡調査

(確認種数計 97種)

滋賀県RDBは青文字 (35種)

環境省RLは赤文字 (3種)

両方に該当する場合は赤文字とアンダーライン

哺乳類	鳥類		両生・爬虫類	昆虫類・陸産貝類	
モグラ科の一種 ノウサギ ニホンリス ニホンツキノワグマ タヌキ テン アナグマ イタチ属の一種 イノシシ ニホンジカ	クマタカ ヤマドリ キジバト アオバト ジュウイチ ツツドリ ホトギス アマツバメ アカショウビン アオゲラ アカゲラ オオアカゲラ コゲラ イワツバメ キセキレイ ビンズイ サンショウクイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ コマドリ	コルリ トラツグミ クロツグミ アカハラ ヤブサメ ウグイス センダイムシクイ キビタキ コサメビタキ サンコウチョウ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ イカル カケス ハシブトガラス	ニホントカゲ カナヘビ ヒバカリ ヤマカガシ マムシ アカハライモリ ナガレヒキガエル タゴガエル モリアオガエル カジカガエル	アキアカネ キボシマルウンカ アオバハゴロモ ツクツクボウシ ミンミンゼミ チツチゼミ ツマグロオオヨコバイ ニワハナミョウ ヨツボシモンシデムシ ミヤマクワガタ スジクワガタ アカアシクワガタ トウカイコルリクワガタ ムネアカオオアリ トゲアリ チャイロスズメバチ オオスズメバチ キイロスズメバチ オオハキリバチ トラマルハナバチ イチモンジセセリ	キタキチョウ ルリシジミ ウラギンシジミ サカハチチョウ メスグロヒョウモン コムシジ クロヒカゲ コジャノメ ヒメジャノメ サトキマダラヒカゲ ヒメキマダラヒカゲ キンモンガ イカリモンガ キセルガイ科の一種 ニッポンマイマイ属の一種
(10種)	(41種)		(10種)	(36種)	



カナヘビ



アカハライモリ

動物調査結果

昆虫調査(ピットフォールトラップ)

(確認種数計 33種)

バッタ類、カメムシ類	コウチュウ類	ハチ類、その他
カマドウマ科の一種 フトハサミツノカメムシ ハサミツノカメムシ	マイマイカブリ マヤサンオサムシ クロナガオサムシ ヤコンオサムシ アトボシアオゴミムシ ヒョウゴナガゴミムシ マルガタナガゴミムシ マルガタツヤヒラタゴミムシ クロツヤヒラタゴミムシ アカガネオオゴミムシ ニワハンミョウ ベッコウヒラタシデムシ クロシデムシ ヨツボシモンシデムシ クロガネハネカクシ ハネカクシ科の一種 センチコガネ スジクワガタ ミヤマクワガタ コイチャコガネ クロマルエンマコガネ コブマルエンマコガネ ツヤエンマコガネ オオトラフハナムグリ キマワリ ノコギリカミキリ オオゾウムシ	ムネアカオオアリ クロヤマアリ アメイロアリ
(3種)	(27種)	(3種)

シカ食害調査結果

階層高	シカによる影響							
	プロット1		プロット2		プロット3		プロット4	
	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度
高木層	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-
亜高木層	なし	-	なし	-	リョウブ	小	なし	-
低木層	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-
ササ層	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-
草本層	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-

※ 指標種：トウヒ、ウラジロモミ、**リョウブ**、イヌツゲ、クロモジ、アオキ
(近畿中国森林管理局における指標種、**赤字**は分布のあった指標種)

評価結果

項目	評価内容	評価(案)
林分の状態	過年度調査での林分の主要構成種から大きな変化はなく、健全に遷移していると考えられる。	本保護林は、自然状態が十分保存された天然林を主体とした、地域固有の生物群集がまとまりを持って存在する森林であると考えられるため、生物群集保護林の要件を満たしていると考えられる。
保護対象種の生育状況	ブナ、ミズナラが良好に生育し、下層植生にも保護対象種の生育が確認されていることから、健全な生育状況であると考えられる。	
林床植生の生育状況	主要構成種に大きな変化はみられなかった。	
動物の生息状況	確認種の多くは、平地から山地に生息する種であったが、ニホンツキノワグマ、アオゲラ、クマタカ等の森林に生息する種も確認された。また、ブナ帯に生息するトウカイコルリクワガタといった当該保護林を代表するような種も確認されており、多様な動物相が形成されていると考えられる。	
気象害	台風等による気象害は確認されなかったことから、健全な状態が維持されていると考えられる。	
病虫害	ナラ枯れ等の病虫害は確認されなかったことから、健全な状態が維持されていると考えられる。	
獣害	現状では食害の程度は小さく、植生への影響は少ないと考えられる。	
土壌侵食度	土壌の侵食は確認されなかったことから、設定当時と変わらず水土保全機能が維持されていると考えられる。	

上谷山ブナ・ミズナラ植物群落保護林の取扱い方針

設定の基本的考え方

- ①地域固有の生物群集がまとまりを持って存在する森林である。
- ②面積は573.74haで、要件の300haを超えている。

よって、生物群集保護林へ移行させる方向で検討する。

平成28年度保護林区分の見直しに係る調査

氷ノ山・三の丸ブナ植物群落保護林

調査地	兵庫県養父市、宍粟市 坂ノ谷、四ヶノ仙、奥山国有林
保護林の目的	裏日本地帯における西限付近のブナ・オオバクロモジ群落の天然林の保護
検討内容	生物群集保護林の要件を満たすか否か



調査区域および調査プロット



プロット1(円山川)



プロット2(円山川)



プロット3(円山川)



プロット1(揖保川)



プロット3(揖保川)



プロット4(揖保川)

調査箇所	林班	小班
円山川	プロット1	651 へ1
	プロット2	649 と1
	プロット3	650 と
揖保川	プロット1	89 ほ
	プロット3	94 ほ
	プロット4	89 と

森林の状況(H25モニタリング調査より)

裏日本地帯における西限付近のブナクロモジ群落天然林で、高木層は主にブナが林冠を構成し、亜高木層はブナ、コシアブラ、タカノツメ等が生育している。低木層ではリョウブ、ブナ、マルバマンサク、チシマザサ、草本層ではミヤマシキミ、ブナ等となっている。

動物調査結果

哺乳類(自動撮影)調査

確認種	
哺乳類	コウモリ目
	ネズミ科の一種
	テン
	ニホンジカ
鳥類	アカゲラ
	ヤブサメ
	マミジロ
	クロツグミ
	コルリ
	キビタキ
	アオジ
	カケス
	ソウシチョウ



テン



ニホンジカ



アカゲラ



クロツグミ



コルリ



ソウシチョウ

動物調査結果

直接観察・痕跡調査

(確認種数計 47種)

兵庫県RDBは青文字 (12種)

環境省RLは赤字 (1種)

両方に該当する場合は赤字とアンダーライン

哺乳類	鳥類	両生・爬虫類	昆虫類
モグラ科の一種	トビ	カナヘビ	ミヤマサナエ
ニホンリス	<u>ヤマドリ</u>	<u>タチホヘビ</u>	ニイニゼミ
ネズミ科の一種	キジバト	シマヘビ	ヒグラシ
キツネ	アオバト	<u>ジムグリ</u>	センシコガネ
テン	カッコウ	ヤマカガシ	キイロスズメバチ
アナグマ	<u>アオゲラ</u>	マムシ	アカウシアブ
イタチ属の一種	<u>アカゲラ</u>	<u>ニホンヒキガエル</u>	アサギマダラ
ニホンジカ	コゲラ	アズマヒキガエル	
	イワツバメ	<u>タゴガエル</u>	
	キセキレイ		
	<u>カワガラス</u>		
	クロツグミ		
	ソウシチョウ		
	ウグイス		
	<u>キビタキ</u>		
	エナガ		
	<u>コガラ</u>		
	ヒガラ		
	ヤマガラ		
(8種)	シジュウカラ (23種)	(9種)	(7種)



マムシ



タチホヘビ



ミヤマサナエ

動物調査結果

昆虫調査(ピットフォールトラップ)

(確認種数計 40種)

バッタ類、カメムシ類	コウチュウ類	ハチ類、その他
カマドウマ科の一種 ハラヒシバッタ ガロアムシ モンキアワフキ ツノアオカメムシ	セグロホソクビゴミムシ マイマイカブリ オオオサムシ マヤサンオサムシ クロナガオサムシ ウスイロコミズギワゴミムシ ヒョウゴナガゴミムシ マルガタツヤヒラタゴミムシ クロツヤヒラタゴミムシ ヒメツヤヒラタゴミムシ オオクロツヤヒラタゴミムシ オオクロツヤゴモクムシ アカガネオオゴミムシ クロシデムシ ヨツボシモンシデムシ クロガネハネカクシ ハネカクシ科の一種 センチコガネ スジクワガタ ヒメオオクワガタ アカアシクワガタ マエカドコエンマコガネ クロマルエンマコガネ ツヤエンマコガネ オオトラフハナムグリ アオカミキリモドキ マルヒサゴゴミムシダマシ キマワリ ホソクビキマワリ マヤサンコブヤハズカミキリ オオゾウムシ	ヤマトシリアゲ ムネアカオオアリ ハヤシクロヤマアリ クロヤマアリ
(5種)	(31種)	(4種)

シカ食害調査結果

階層高	シカによる影響											
	円山川						揖保川					
	プロット1		プロット2		プロット3		プロット1		プロット3		プロット4	
	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度
高木層	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-
亜高木層	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-
低木層	なし	-	なし	-	枯損木	小	なし	-	なし	-	なし	-
ササ層	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-
草本層	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-

※ 指標種：トウヒ、ウラジロモミ、リョウブ、イヌツゲ、クロモジ、アオキ
(近畿中国森林管理局における指標種、赤字は分布のあった指標種)

評価結果

項目	評価内容
林分の状態	過年度調査での林分の主要構成種から大きな変化はなく、健全に遷移していると考えられる。
保護対象種の生育状況	ブナ、ミズナラは、良好に生育しているが、オオバクロモジの生育数は少ないと考えられる。
林床植生の生育状況	主要構成種に大きな変化はみられなかった。
動物の生息状況	確認種の多くは、平地から山地に生息する種であったが、ニホンリス、アオゲラ、ミソサザイ等の森林に生息する種やキセキレイ、カワガラス等溪流に生息する種等も確認されており、多様な動物相が形成されていると考えられる。
気象害	台風等による気象害は確認されなかったことから、健全な状態が維持されていると考えられる。
病虫害	ナラ枯れ等の病虫害は確認されなかったことから、健全な状態が維持されていると考えられる。
獣害	現状では食害の程度は小さく、植生への影響は少ないと考えられるが、今後食害が進行するようであれば、植生への影響が懸念される。
土壌侵食度	土壌の侵食は確認されなかったことから、設定当時と変わらず水土保全機能が維持されていると考えられる。

評価(案)

本保護林は、現状では自然状態が十分保存された天然林を主体とした、地域固有の生物群集がまとまりを持って存在する森林であると考えられるため、生物群集保護林の要件を満たしていると考えられる。

氷ノ山・三の丸ブナ植物群落保護林の取扱い方針

設定の基本的考え方

- ①地域固有の生物群集がまとまりを持って存在する森林である。
- ②面積は384.75haで、要件の300haを超えている。

よって、生物群集保護林へ移行させる方向で検討する。

平成28年度保護林区分の見直しに係る調査

三国山ブナ植物群落保護林

調査地	鳥取県鳥取市 山王谷、中津国有林
保護林の目的	三国山における代表的なブナを主体とした高 齢級天然林の保護
検討内容	生物群集保護林の要件を満たすか否か



調査区域および調査プロット

調 査 箇 所		林班	小班
千代川	プロット1	103	ち
天神川	プロット1	521	に
	プロット5	524	に
	プロット8	519	は
	プロット10	517	る



森林の状況(H25保護林拡充調査より)

日本海側ブナ林の構成種を多く含む森林で、ブナがほぼ単独で優占する中に天然生スギやミズナラが散生し、林床にはチシマザサが広く覆っている。



プロット1(千代川)



プロット1(天神川)



プロット5(天神川)



プロット8(天神川)



プロット10(天神川)

動物調査結果

哺乳類(自動撮影)調査

確認種

イノシシ
ニホンジカ



イノシシ



ニホンジカ

動物調査結果

直接観察・痕跡調査

(確認種数計 85種)

鳥取県RDBは青文字 (5種)

環境省RLは赤文字 (2種)

両方に該当する場合は赤文字とアンダーライン

哺乳類	鳥類	両生・爬虫類	昆虫類・陸産貝類
モグラ科の一種 ノウサギ ネズミ科の一種 ニホンツキノワグマ タヌキ テン アナグマ イタチ属の一種 イノシシ ニホンジカ (10種)	コジュケイ ヤマドリ キジバト オオルリ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ <u>アカショウビン</u> アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ <u>トラツグミ</u> クロツグミ アカハラ ソウシチョウ ヤブサメ (33種)	ウグイス キビタキ オオルリ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ <u>アカハライモリ</u> <u>ニホンヒキガエル</u> アマガエル タゴガエル <u>トノサマガエル</u> (11種)	アキアカネ ヒメアカネ ツクツクボウシ エゾゼミ チッチゼミ ツマグロオオヨコバイ マツモムシ トゲカメムシ エサキモンキツノカメムシ ルリクワガタ ニシコルリクワガタ シロトホシテントウ ナナホシテントウ シラホシカミキリ ムネアカオオアリ コガタスズメバチ オオスズメバチ キイロスズメバチ トラマルハナバチ ホソヒラタアブ (31種)



ヤマガタシ



ニホンヒキガエル



スミナガシ

動物調査結果

昆虫調査(ピットフォールトラップ)

(確認種数計 32種)

バッタ類、カメムシ類	コウチュウ類	ハチ類、その他
カマドウマ科の一種	セグロホソクビゴミムシ マイマイカブリ ヒメオサムシ マヤサンオサムシ クロナガオサムシ ヤコンオサムシ ヒョウゴナガゴミムシ ヨリトモナガゴミムシ マルガタツヤヒラタゴミムシ クロツヤヒラタゴミムシ ヒメツヤヒラタゴミムシ オオクロツヤヒラタゴミムシ アカガネオオゴミムシ クロシデムシ ヨツボシモンシデムシ クロガネハネカクシ ハネカクシ科の一種 センチコガネ スジクワガタ ヒメオオクワガタ アカアシクワガタ ミヤマクワガタ コイチャコガネ ヒメコガネ クロマルエンマコガネ ツヤエンマコガネ オオトラフハナムグリ(27種)	コブハサミムシ ヤマトシリアゲ ムネアカオオアリ クロヤマアリ
(1種)		(4種)

シカ食害調査結果

階層高	シカによる影響									
	千代川		天神川							
	プロット1		プロット1		プロット5		プロット8		プロット10	
	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度
高木層	ブナ	小	ブナ	小	ブナ	小	ブナ ミズナラ	小	なし	-
亜高木層	なし	-	カエデ類	小	なし	-	ブナ	小	なし	-
低木層	クロモジ イヌツゲ	小	カエデ類	小	ウリカエデ	小	クロモジ タニウツギ	小	なし	-
ササ層	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-	なし	-
草本層	なし	-	なし	-	シソ科 キク科 ミゾソバ	小	コアジサイ	小	なし	-

※ 指標種：トウヒ、ウラジロモミ、リョウブ、**イヌツゲ**、**クロモジ**、アオキ
(近畿中国森林管理局における指標種、**赤字**は分布のあった指標種)

評価結果

項目	評価内容
林分の状態	過年度調査での林分の主要構成種から大きな変化はなく、健全に遷移していると考えられる。
保護対象種の生育状況	スギ、ブナ、トチノキが良好に生育し、下層植生にも保護対象種の生育が確認されていることから、健全な生育状況であると考えられる。
林床植生の生育状況	主要構成種に大きな変化はみられなかった。
動物の生息状況	確認種の多くは、平地から山地に生息する種であったが、ニホンツキノワグマ、アオゲラ、ミソサザイ等の森林に生息する種やブナ帯に生息するルリクワガタといった保護林を代表するような種も確認された。また、ビットフォールトラップでは、森林の林床を生息場所とする分解系のコウチュウ類が多く確認されており、多様な動物相が形成されていると考えられる。
気象害	台風等による気象害は確認されなかったことから、健全な状態が維持されていると考えられる。
病虫害	ナラ枯れ等の病虫害は確認されなかったことから、健全な状態が維持されていると考えられる。
獣害	現状では食害の程度は小さく、植生への影響は少ないと考えられるが、今後食害が進行するようであれば、植生への影響が懸念されるため、ニホンジカと保護対象種を含めた植生の動向に注意する必要があると考えられる。
土壌侵食度	土壌の侵食は確認されなかったことから、設定当時と変わらず水土保全機能が維持されていると考えられる。

評価(案)

本保護林は、自然状態が十分保存された天然林を主体とした、地域固有の生物群集がまとまりを持って存在する森林であると考えられるため、生物群集保護林の要件を満たしていると考えられる。

三国山ブナ植物群落保護林の取扱い方針

設定の基本的考え方

- ①地域固有の生物群集がまとまりを持って存在する森林である。
- ②面積は319.03haで、要件の300haを超えている。

よって、生物群集保護林へ移行させる方向で検討する。

平成28年度保護林区分の見直しに係る調査

宮島特定動物生息地保護林

調査地	広島県廿日市市 宮島国有林
保護林の目的	ミヤジマトンボ生息地の保護
検討内容	生物群集保護林の要件を満たすか否か



新規プロット1

No	樹種	本数	本数 (本/ha)	(%)	平均胸高 直径(cm)	胸高断面積 (㎡/ha)
1	アカマツ	6	60	3.0	23.8	2.90
2	ヤマモモ	6	150	7.5	17.5	1.65
3	コナラ	1	10	0.5	28.9	0.66
4	シキミ	1	25	1.3	7.3	0.04
5	シロダモ	4	100	5.0	9.7	0.32
6	ヤブツバキ	30	750	37.5	10.2	2.75
7	サカキ	13	325	16.3	12.8	2.03
8	ヒサカキ	7	175	8.8	9.7	0.55
9	ヒメズリハ	14	350	17.5	12.0	1.73
10	クロバイ	2	20	1.0	23.4	0.86
11	ネズミモチ	1	25	1.3	5.9	0.03
	11種	85	1990	100.0	12.9	13.53

新規プロット2

No	樹種	本数	本数 (本/ha)	(%)	平均胸高 直径(cm)	胸高断面積 (㎡/ha)
1	アカマツ	20	200	12.5	25.7	11.15
2	アラカシ	1	25	1.6	11.8	0.11
3	ヤブツバキ	5	125	7.8	9.1	0.39
4	サカキ	10	250	15.6	10.8	1.02
5	ヒサカキ	2	50	3.1	8.4	0.11
6	ヤマザクラ	10	250	15.6	14.7	2.39
7	ヒメズリハ	1	25	1.6	6.5	0.03
8	ネジキ	16	400	25.0	8.1	0.88
9	タイミンタチバナ	5	125	7.8	7.8	0.25
10	シロバイ	1	10	0.6	40.0	1.26
11	クロバイ	4	40	2.5	26.1	2.17
12	ネズミモチ	2	50	3.1	7.0	0.08
	12種	77	1550	100.0	15.3	19.85

毎木調査結果

新規プロット3

No	樹種	本数	本数 (本/ha)	(%)	平均胸高 直径(cm)	胸高断面積 (㎡/ha)
1	ヤマモモ	4	100	3.9	17.7	1.13
2	ツブラジイ	3	30	1.2	33.9	2.75
3	アラカシ	2	50	1.9	14.3	0.33
4	シラカシ	6	60	2.3	25.8	3.32
5	シキミ	2	50	1.9	8.6	0.12
6	クスノキ	1	10	0.4	25.0	0.49
7	ヤブニツケイ	7	175	6.8	14.0	1.30
8	シロダモ	29	725	28.2	11.9	3.70
9	ヤブツバキ	10	250	9.7	12.3	1.41
10	サカキ	24	600	23.3	8.5	1.47
11	バクチノキ	1	25	1.0	8.3	0.05
12	カラスザンショウ	1	25	1.0	11.5	0.10
13	ネジキ	1	25	1.0	7.3	0.04
14	タイミンタチバナ	8	200	7.8	7.5	0.36
15	ミミズバイ	7	175	6.8	7.1	0.30
16	クロバイ	2	50	1.9	12.9	0.29
	16種	108	2550	100.0	12.5	17.16

新規プロット1

階層	植物名	優占度	階層	植物名	優占度
S	カゴノキ	+	H	コシダ	2
S	サカキ	+	H	ウラジロ	+
S	サルトリイバラ	+			
S	シキミ	+			
S	シロダモ	+			
S	ヒサカキ	+			
S	ヒメズリハ	+			
S	ヤブニツケイ	+			
S	ヤマモモ	+			

※小円部、0.01ha内に出現したシダ植物以上記入
階層:低木層=S
:草本層=H

新規プロット2

階層	植物名	優占度	階層	植物名	優占度
S	アカマツ	+	H	コシダ	4
S	クロバイ	+			
S	サカキ	+			
S	タイミンタチバナ	+			
S	ネズミモチ	+			
S	ヒサカキ	+			

※小円部、0.01ha内に出現したシダ植物以上記入
階層:低木層=S
:草本層=H

植生調査結果

新規プロット3

階層	植物名	優占度
S	サカキ	+
S	シロダモ	+
S	タイミンタチバナ	+
S	ミミズバイ	+
S	ヤブツバキ	+
S	ヤブニツケイ	+

※小円部、0.01ha内に出現したシダ植物以上記入
階層:低木層=S

動物調査結果

哺乳類(自動撮影)調査

確認種

ニホンザル
タヌキ
イノシシ
ニホンジカ

ニホンザル



タヌキ



イノシシ



ニホンジカ



動物調査結果

直接観察・痕跡調査

(確認種数計 70種)

広島県RDBは青文字 (5種)

環境省RLは赤字 (4種)

両方に該当する場合は赤字とアンダーライン

哺乳類	鳥類	両生・爬虫類	昆虫類・陸産貝類	
ニホンザル ネズミ科の一種 タヌキ アナグマ イノシシ ニホンジカ	アオサギ ミサゴ トビ キジバト アオバト カワセミ アオゲラ コゲラ セグロセキレイ サンショウウイ ヒヨドリ インビヨドリ ウグイス エナガ ヤマガラ メジロ ハシボソガラス ハシブトガラス	クサガメ トカゲ カナヘビ ヒノカリ マムシ アカハライモリ タゴガエル	オニヤンマ ミルンヤンマ シオカラトンボ ミヤジマトンボ オオシオカラトンボ ウスバキトンボ リスアカネ モリオカメコオロギ アオマツムシ カネタタキ トノサマバッタ アオバハゴロモ アミガサハゴロモ クマゼミ アブラゼミ ツクツクボウシ ミンミンゼミ ニイニイゼミ シマアメンボ オオアメンボ	ハンミョウ ルイスハンミョウ ハイイロゲンゴロウ キボシアシナガバチ オオスズメバチ キイロスズメバチ クマバチ サツマニシキ ジャコウアゲハ アオスジアゲハ モンキアゲハ ナミアゲハ ルリシジミ ムラサキシジミ ウラギンシジミ イシガケチョウ クロコノマチョウ キンモンガ マイマイ属の一種
(6種)	(18種)	(7種)	(39種)	



ニホンジカ



クサガメ



ルリシジミ

動物調査結果

昆虫調査(ピットフォールトラップ)

(確認種数計 21種)

バッタ類、カメムシ類	コウチュウ類	ハチ類、その他
カマドウマ科の一種 クチキコオロギ ヤチスズ マルウンカ オオモンシロナガカメムシ ツチカメムシ (6種)	オオホソクビゴミムシ クロツブゴミムシ フタホシスジバネゴミムシ ゴホンダイコクコガネ クロマルエンマコガネ コブマルエンマコガネ カドマルエンマコガネ ツヤエンマコガネ クチキムシ クロカミキリ (10種)	アシナガアリ ウメマツオオアリ ハヤシクロヤマアリ クロヤマアリ チクシトゲアリ (5種)

シカ食害調査結果

階層高	シカによる影響					
	プロット1		プロット2		プロット3	
	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度	被害種	食害の程度
高木層	ヤマモモ サカキ アカマツ	小	なし	-	なし	-
亜高木層	ヤブツバキ ヒメユズリハ	小	なし	-	なし	-
低木層	サカキ ヒサカキ	小	ネジキ サカキ	小	なし	-
ササ層	なし	-	なし	-	なし	-
草本層	サルトリイバラ	小	コシダ	小	コシダ ウラジロ	小

※ 指標種：トウヒ、ウラジロモミ、リョウブ、イヌツゲ、クロモジ、アオキ
(近畿中国森林管理局における指標種、赤字は分布のあった指標種)

評価結果

項目	評価内容	評価(案)
林分の状態	既存プロット周辺は、過年度調査での林分の主要構成種から大きな変化はなく、健全に遷移していると考えられる。	保護林内に生育する樹種及び植生では、地域固有と言えるものが無く、動物についても、平地から山地に生息する種、森林性や海浜性の昆虫が生息している状況となっている。 以上のことから本保護林は、地域固有の生物群集がまとまりを持って存在する森林とまでは判断できなかった。
保護対象種の生育状況	保護対象種であるミヤジマトンボは、江の尻浦付近で飛翔する2個体を目視により確認した。	
林床植生の生育状況	ニホンジカの食害により、下層植生が減少傾向であると考えられる。	
動物の生息状況	確認種の多くは、平地から山地に生息する種であったが、森林性の種やルイスハンミョウのような海浜性の種も確認されており、多様な動物相が形成されていると考えられる。	
気象害	台風等による気象害は確認されなかったことから、健全な状態が維持されていると考えられる。	
病虫害	ナラ枯れ等の病虫害は確認されなかったことから、健全な状態が維持されていると考えられる。	
獣害	全調査プロットにおいてニホンジカによる食害が確認された。	
土壌侵食度	土壌の浸食は確認されなかったことから、設定当時と変わらず水土保持機能が維持されていると考えられる。	

宮島特定動物生息地保護林の取扱い方針

設定の基本的考え方

- ①地域固有の生物群集がまとまりを持って存在する森林とまでは判断できない。
- ②面積は1,065.93haで、要件の300haを超えている。

生物群集保護林への移行の検討を行ったが、①の要件を満たさないことから希少個体群保護林へ移行させる方向で検討する。

平成28年度保護林区分の見直しに係る調査

岩見山特定地理等保護林

調査地	広島県神石高原町 岩見山国有林
保護林の目的	仁吾川が浸食され、石灰岩を中心とした岩壁や多彩な植物相と相まった特異な自然景観の保護及び学術研究のため。
検討内容	希少個体群保護林の要件を満たすか否か



調査区域および調査プロット



毎木調査結果

新規プロット1

№	樹種	本数	本数 (本/ha)	(%)	平均胸高 直径(cm)	胸高断面積 (㎡/ha)
1	アカマツ	8	80	6.6	38.9	9.88
2	ヒノキ	66	660	54.5	18.3	19.62
3	コナラ	6	60	5.0	21.6	2.32
4	アベマキ	1	10	0.8	23.6	0.44
5	ソヨゴ	7	70	5.8	11.2	0.75
6	リョウブ	4	40	3.3	7.7	0.19
7	ネジキ	2	20	1.7	8.0	0.10
8	アセビ	3	30	2.5	10.4	0.26
	8種	97	970	80.0	18.9	33.56

新規プロット3

№	樹種	本数	本数 (本/ha)	(%)	平均胸高 直径(cm)	胸高断面積 (㎡/ha)
1	アカマツ	3	30	2.2	27.5	1.81
2	ツガ	1	10	0.7	16.5	0.21
3	アカシデ	1	10	0.7	10.8	0.09
4	コナラ	7	70	5.0	15.6	1.50
5	アベマキ	5	50	3.7	28.7	3.45
6	ウラジロノキ	1	10	0.7	13.2	0.14
7	ソヨゴ	10	100	7.4	7.3	0.43
8	タカノツメ	1	10	0.7	8.2	0.05
9	リョウブ	7	70	5.0	8.6	0.43
10	ネジキ	23	230	16.9	7.5	1.05
	10種	59	590	42.4	11.7	9.18

新規プロット2

№	樹種	本数	本数 (本/ha)	(%)	平均胸高 直径(cm)	胸高断面積 (㎡/ha)
1	アカマツ	13	130	8.3	28.1	8.80
2	ヒノキ	27	270	16.7	15.0	5.36
3	コナラ	6	60	3.8	19.5	2.09
4	ウラジロノキ	2	20	1.2	7.3	0.08
5	ソヨゴ	12	120	7.4	9.5	0.94
6	リョウブ	7	70	4.3	6.7	0.26
7	ネジキ	3	30	1.8	7.3	0.13
8	アセビ	4	40	2.5	7.5	0.18
	8種	74	740	45.0	15.0	17.84

植生調査結果

新規プロット1

階層	植物名	優占度
S	コバノミツバツツジ	2
S	アセビ	1
S	ソヨゴ	1

※小円部、0.01ha内に出現したシダ植物以上記入
階層:低木層=S

新規プロット2

階層	植物名	優占度	階層	植物名	優占度
S	コバノミツバツツジ	2	H	シノブ	+
S	ソヨゴ	1			
S	ネザサ	1			
S	リョウブ	1			
S	アカガシ	+			
S	イヌブナ	+			
S	ガマズミ	+			
S	コシアブラ	+			
S	コナラ	+			
S	サルトリイバラ	+			
S	ヒノキ	+			
S	フジ	+			
S	モチツツジ	+			
S	ヤマウルシ	+			

※小円部、0.01ha内に出現したシダ植物以上記入
階層:低木層=S
:草本層=H

新規プロット3

階層	植物名	優占度	階層	植物名	優占度
S	ヤマツツジ	2	H	タガネソウ	1
S	コウヤボウキ	1	H	イタドリ	+
S	コバノミツバツツジ	1	H	シノブ	+
S	ヤマハギ	1			
S	アカマツ	+			
S	アベマキ	+			
S	アラカシ	+			
S	ウリカエデ	+			
S	ガマズミ	+			
S	ガンピ	+			
S	コナラ	+			
S	シオデ	+			
S	ダンコウバイ	+			
S	ツクバネウツギ	+			
S	ノグルミ	+			
S	マルバアオダモ	+			
S	ムラサキシキブ	+			

※小円部、0.01ha内に出現したシダ植物以上記入
階層:低木層=S
:草本層=H

動物調査結果

哺乳類(自動撮影)調査

確認種

コウモリ目の一種



Ltl Acorn ● 075F 024C 08/02/2016 20:24:13

コウモリ目の一種

動物調査結果

直接観察・痕跡調査

(確認種数計 62種)

広島県RDBは青文字 (4種)

環境省RLは赤文字 (2種)

両方に該当する場合は赤文字とアンダーライン

哺乳類	鳥類	両生・爬虫類	昆虫類
ノウサギ イノシシ	アオサギ <u>ミサゴ</u> トビ キジバト アオバト カワセミ アオゲラ コゲラ セグロセキレイ <u>サンショウクイ</u> ヒヨドリ イソヒヨドリ ウグイス エナガ ヤマガラ メジロ ハシボソガラス ハシブトガラス	<u>トカゲ</u> カナヘビ アオダイショウ アマガエル <u>ニホンアカガエル</u> ヤマアカガエル <u>トノサマガエル</u> モリアオガエル カジカガエル	ハグロトンボ ショウジョウトンボ シオカラトンボ オオシオカラトンボ エンマコオロギ ササキリ クビキリギリ ショウリョウバッタ クルマバッタモドキ アオバハゴロモ ツクツクボウシ ミンミンゼミ ニイニゼミ ツマグロオオヨコバイ メダカナガカメムシ ホソハリカメムシ クロオオアリ コガタスズメバチ キイロスズメバチ カラスアゲハ
(2種)	(18種)	(9種)	(33種)



トカゲ



アオダイショウ



トノサマガエル

評価結果

項目	評価内容	評価(案)
林分の状態	過年度調査での林分の主要構成種から大きな変化はなく、健全に遷移していると考えられる。	本保護林は、植物では環境省RL及び広島県RDBに該当する植物種は確認されておらず、動物種では数種が確認はされているが、特別な保護対策が必要な動物種ではないことから、本保護林の取扱いについては、更に検討が必要である。
保護対象種の生育状況	保護対象である石灰岩を中心とする岩壁や自然景観は、過年度調査から大きな変化はなく、災害等の痕跡や大きな土壌侵食等も確認されなかった。	
動物の生息状況	確認種の多くは、平地から山地に生息する種であったが、コゲラ、ヤマガラ等森林に生息する種やカワセミ、カワガラスといった溪流等に生息する種も確認された。ビットフォールトラップでは、森林の林床を生息場所とする分解系のコウチュウ類が多く確認された。	
気象害	台風等による気象害は確認されなかったことから、健全な状態が維持されていると考えられる。	
病虫害	病虫害は確認されなかったことから、健全な状態が維持されていると考えられる。	
獣害	現状では食害は確認されなかった。	
土壌侵食度	土壌の侵食は確認されなかったことから、設定当時と変わらず水土保全機能が維持されていると考えられる。	

岩見山特定地理等保護林の取扱い方針

設定の基本的考え方

面積は29.64haで、要件の5haを超えているが、基本的考え方の①～⑦に該当していない。

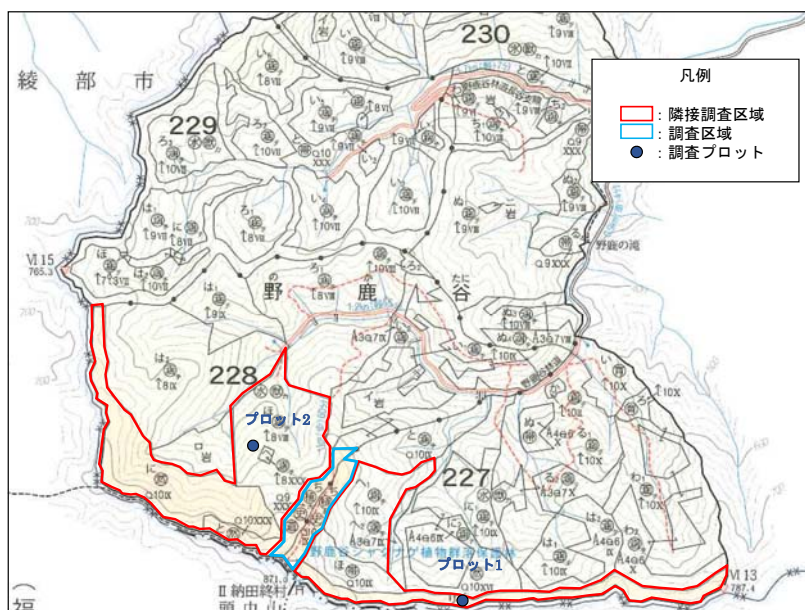
よって、希少個体群保護林へ移行させるかどうか、今後更に検討を要する。

野鹿谷シャクナゲ植物群落保護林

調査地	福井県おおい町 野鹿谷国有林
保護林の目的	自生シャクナゲ(天然記念物)の保護。
検討内容	保護林に隣接する林分が拡充可能か否か



調査区域および調査プロット



プロット1



プロット2

調査箇所	林班	小班
保護林に隣接する林分	227	へ1、ほ、り
保護林に隣接する林分	228	に、ほ、と

毎木調査結果

プロット1

Nº	樹種	本数	本数 (本/ha)	(%)	平均胸高 直径(cm)	胸高断面積 (㎡/ha)
1	アカシデ	3	30	3.6	28.2	3.43
2	イヌシデ	14	140	17.0	25.1	9.67
3	クリ	8	80	9.7	36.6	9.00
4	ブナ	2	50	6.1	8.7	0.12
5	カナクギノキ	1	10	1.2	24.3	0.46
6	ナツツバキ	1	10	1.2	26.2	0.54
7	アズキナシ	1	25	3.0	11.3	0.10
8	ハウチワカエデ	3	75	9.1	5.7	0.08
9	イタヤカエデ	2	50	6.1	17.7	0.60
10	オオモミジ	1	10	1.2	23.6	0.44
11	ウリハダカエデ	15	150	18.2	21.9	6.99
12	トチノキ	3	30	3.6	22.1	1.33
13	ヤマボウシ	1	25	3.0	7.4	0.04
14	クマノミズキ	1	10	1.2	21.1	0.35
15	ハクウンボク	1	25	3.0	13.7	0.15
16	アオダモ	1	25	3.0	9.4	0.07
	16種	58	745	100.0	22.8	33.35

プロット2

Nº	樹種	本数	本数 (本/ha)	(%)	平均胸高 直径(cm)	胸高断面積 (㎡/ha)
1	アカマツ	1	10	0.5	40.0	1.26
2	スギ	25	250	12.3	57.6	79.71
3	ヒノキ	3	30	1.5	82.0	16.58
4	ミズメ	15	150	7.4	34.9	16.53
5	ミズナラ	2	20	1.0	39.9	3.18
6	ホオノキ	3	30	1.5	56.4	7.67
7	タムシバ	45	450	22.2	30.8	37.02
8	ナツツバキ	8	80	4.0	32.0	7.64
9	マルバマンサク	7	70	3.5	20.3	2.33
10	ノリウツギ	2	50	2.5	17.7	0.50
11	ヤマザクラ	1	10	0.5	123.2	11.91
12	コミネカエデ	12	120	5.9	31.0	11.38
13	イタヤメイゲツ	2	20	1.0	27.0	1.32
14	ソヨゴ	2	20	1.0	38.8	2.51
15	コシアブラ	4	40	2.0	54.6	10.17
16	リョウブ	12	120	5.9	21.3	4.43
17	ドウダンツツジsp.	1	10	0.5	22.0	0.38
18	アセビ	3	30	1.5	18.3	0.79
19	ホンシャクナゲ	19	475	23.5	3.7	0.46
20	エゴノキ	2	20	1.0	40.6	2.63
21	アオダモ	1	10	0.5	38.0	1.13
	21種	170	2015	100	33.5	219.5

植生調査結果

プロット1

階層	植物名	優占度
H	イワガラミ	+
H	カナクギノキ	+
H	リョウブ	+

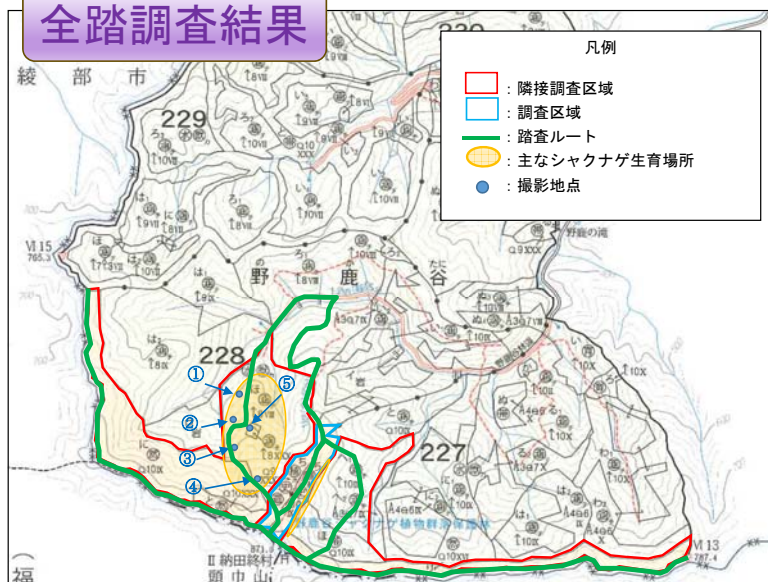
※小円部、0.01ha内に出現したシダ植物以上記入
階層:草本層=H

プロット2

階層	植物名	優占度	階層	植物名	優占度
S	アセビ	3	H	イワウチワ	3
S	スギ	1	H	アセビ	1
S	ヒサカキ	+	H	シノブカグマ	1
			H	コバノイシカグマ	+
			H	シシガシラ	+
			H	マタムシバ	+
			H	ヤワラシダ	+
			H	リョウブ	+

※小円部、0.01ha内に出現したシダ植物以上記入
階層:低木層=S
:草本層=H

全踏調査結果



評価結果

項目	評価内容
林分の状態	プロット1のある227へ1、ほ、リ林小班は、クリ、ウリハダカエデ、イヌシデ等の広葉樹が多い林分であり、プロット2のある228に、ほ、と林小班は、スギが林冠を形成しており、亜高木層以下にタムシバ、ミズキ等の広葉樹が混成する林分である。
保護対象種の生育状況	227へ1、ほ、リ林小班では、保護林との境界付近に僅かに生育していた。228に、ほ、と林小班では、228ほ林小班の低木層に点在して出現した。
林床植生の生育状況	227へ1、ほ、リ林小班では、下層植生が貧弱であり、特に草本層の植生がほとんど生育しておらず、わずかにカナクギノキ、イワガラミ等が生育する程度であった。228に、ほ、と林小班では、斜面ではアセビ、イワウチワ、シノブカグマ等が生育していた。
気象害	台風等による気象害及び風雪害等は確認されなかったことから、良好な状態と考えられる。
病虫害	ナラ枯れ等の病虫害は確認されなかったことから、良好な状態と考えられる。
獣害	227へ1、ほ、リ林小班は、ニホンジカの食害の影響により下層植生が貧弱であった。
土壌浸食度	顕著な土壌浸食等が確認されなかったことから、健全な水土保全機能を有しており、良好な状態と考えられる。

評価(案)
228ほ林小班については、保護対象種のホンシャクナゲの生育は確認されたが、林小班内に点在して生育しているような状況であり、群落を形成するような個体群は存在していないことから、隣接地への拡充については可能性が低いと考えられる。 227へ1、ほ、リ林小班については、林分状況やホンシャクナゲの生育状況が異なることから、隣接地への拡充の可能性は低いと考えられる。

野鹿谷シャクナゲ植物群落保護林の 取扱い方針

設定の基本的考え方

面積は4.00haで、要件の5haを満たしていないが、基本的考え方の①希少化している個体群に該当する。

よって、希少個体群保護林へ移行させる方向で検討する。

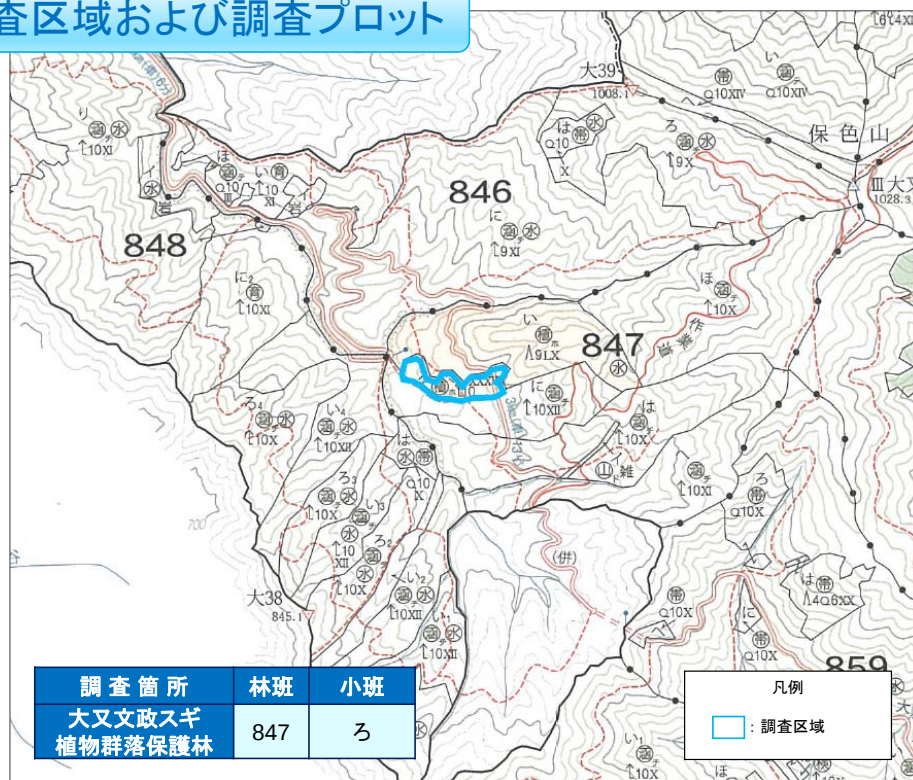
平成28年度保護林区分の見直しに係る調査

大又文政スギ植物群落保護林

調査地	三重県熊野市 大又国有林
保護林の目的	文政年間に植栽されたスギ林の保護。
検討内容	保護林林況の確認



調査区域および調査プロット



全踏調査結果



林内状況



評価結果

項目	評価内容	評価(案)
林分の状態	保護対象種である文政スギは、高木層で優占していた。	林相は、高齢級のスギ林であり、隣接する「大又トガサワラ植物群落保護林」の林相とは大きく相違しており、統合は妥当ではないと考えられる。また、面積は、1.50haと希少個体群保護林の要件を満たしていないものの、文政年間に植栽されたスギ林として学術的、文化的価値が高いと判断される。
保護対象種の生育状況	健全に生育していることから、良好な生育状況であると考えられる。	
林床植生の生育状況	シキミ、シシラン等がわずかに確認される程度であり、林床には下枝や落葉等が30cm程度堆積していた。	
気象害	台風等による気象害及び風雪害等は確認されなかったことから、良好な状態と考えられる。	
病虫害	病虫害は確認されなかったことから、良好な状態と考えられる。	
獣害	保護対象であるスギに対しての被害は確認されなかった。	
土壌浸食度	顕著な土壌浸食等が確認されなかったことから、健全な水土保持機能を有しており、良好な状態と考えられる。	

大又文政スギ植物群落保護林の 取扱い方針

設定の基本的考え方

面積は1.50haで、要件の5haを満たしていないが、基本的考え方の⑦その他保護が必要と認められる保護林に該当する。

隣接の大又モミ・ツガ植物群落保護林への統合はできないが、貴重な江戸末期の人工林であり希少個体群保護林へ移行させる方向で検討する。

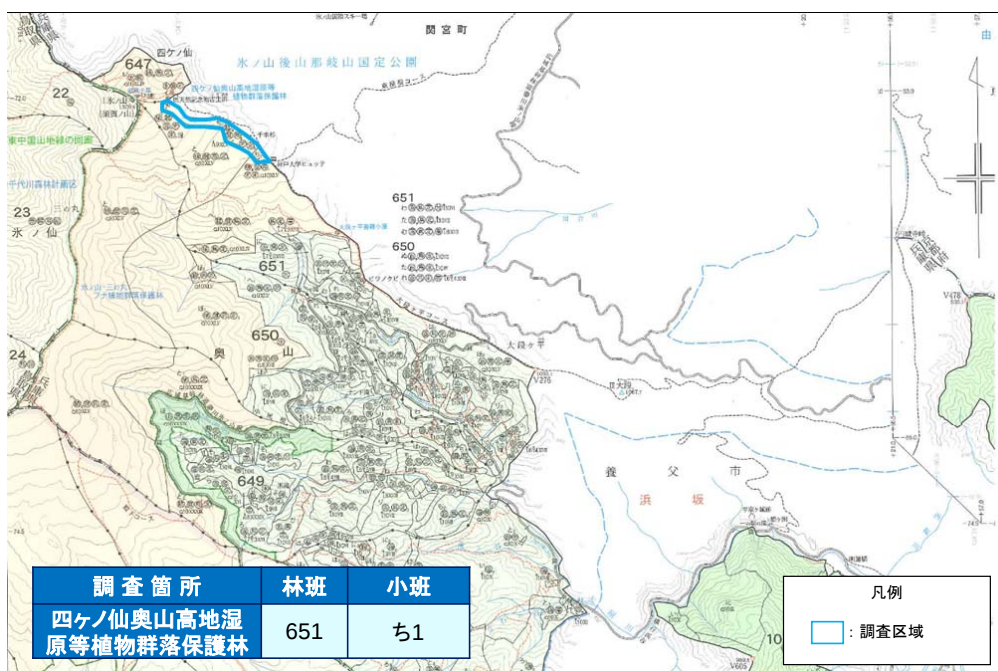
平成28年度保護林区分の見直しに係る調査

四ヶノ仙奥山高地湿原等植物群落保護林



調査地	兵庫県養父市 四ヶノ仙、奥山国有林
保護林の目的	中国地方の代表的なスギ天然林相の保護及び貴重な古生沼高地湿原の保護。
検討内容	隣接する保護林との統合が可能か否か

調査区域および調査プロット



全踏調査結果



評価結果

項目	評価内容	評価(案)
林分の状態	天然スギを中心とした針葉樹林であるが、一部で低木層にミズナラ等の広葉樹が生育する。	隣接する氷ノ山・三の丸ブナ植物群落保護林との統合については、現状としては、それぞれの林分や保護目的に相違があるため、検討が必要であると考えられる。 なお、四ヶノ仙奥山高地湿原等植物群落保護林については、面積が4.41haと希少個体群保護林の面積要件を満たしていないものの、湿原性植物等の希少な植物が生育していることを評価できる。
保護対象種の生育状況	植生保護柵内でヤチスゲ、アイバソウ、オオミズゴケ等が確認されたことから、健全な生育状況であるものと考えられる。	
林床植生の生育状況	チシマザサ等が確認された。	
気象害	台風等による気象害及び風雪害等は確認されなかったことから、良好な状態と考えられる。	
病虫害	病虫害は確認されなかったことから、良好な状態と考えられる。	
獣害	保護対象であるスギに対しての被害は確認されなかった。	
土壌浸食度	顕著な土壌浸食等が確認されなかったことから、健全な水土保全機能を有しており、良好な状態と考えられる。	

四ヶノ仙奥山高地湿原性植物群落保護林 の取扱い方針

設定の基本的考え方

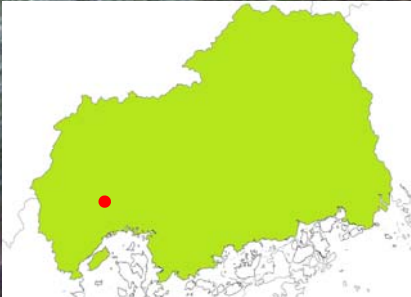
面積は4.41haで、要件の5haを満たしていないが、基本的考え方の⑤草地、湿地、高山帯、岩石地等特殊な立地条件の下に成立している個体群該当する。

隣接の氷ノ山・三の丸ブナ植物群落保護林への統合はできないが、⑤の要件を満たしていることから希少個体群保護林へ移行させる方向で検討する。

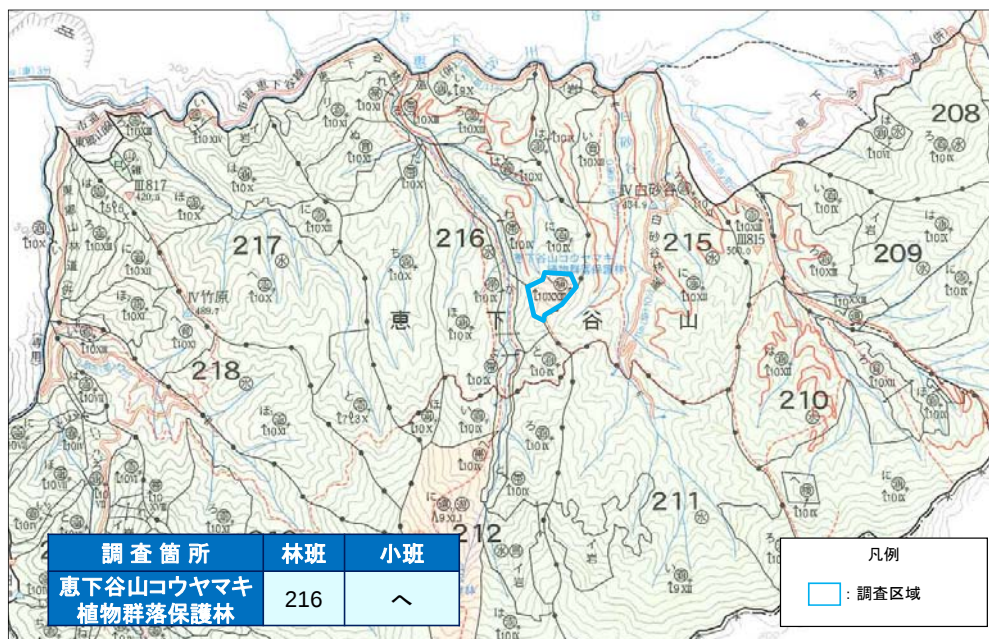
平成28年度保護林区分の見直しに係る調査

恵下谷山コウヤマキ植物群落保護林

調査地	広島県広島市 恵下谷山国有林
保護林の目的	当地方には希少で学術的価値を有する個体の維持保護。
検討内容	保護林林況の確認



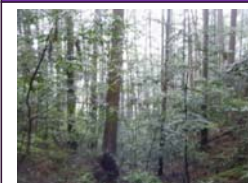
調査区域および調査プロット



全踏調査結果



林内状況



評価結果

項目	評価内容	評価(案)
林分の状態	コウヤマキの他、ヒノキ、スギの大径木が林冠を形成していた。亜高木層以下では、サカキ、ヤブツバキ、ウラジロガン等の常緑広葉樹が生育していた。	本保護林の周囲は、人工林となっており、拡充は不可能である。面積は、1.49haと希少個体群保護林の面積要件は満たしていないものの、希少なコウヤマキ林として残った林分であることが評価できる。
保護対象種の生育状況	健全に生育していることから、良好な生育状況であると考えられる。	
林床植生の生育状況	保存対象樹種であるコウヤマキがわずかにみられた。下枝や落葉等の堆積が多い。	
気象害	台風等による気象害及び風雪害等はほとんど確認されなかったことから、良好な状態と考えられる。	
病虫害	病虫害は確認されなかったことから、良好な状態と考えられる。	
獣害	保護対象種の被害は確認されなかった。	
土壌浸食度	顕著な土壌浸食等が確認されなかったことから、健全な水土保全機能を有しており、良好な状態と考えられる。	

恵下谷山コウヤマキ植物群落保護林の 取扱い方針

設定の基本的考え方

面積は1.49haで、要件の5haを満たしていないが、基本的考え方の⑦その他保護が必要と認められる個体群に該当する。

数少ないコウヤマキが健全に生育している人工林で⑦の要件を満たしていることから希少個体群保護林へ移行させる方向で検討する。

鷹ノ巣山ブナ植物群落保護林



調査地	広島県東広島市 鷹ノ巣山国有林
保護林の目的	中国地方の暖帯落葉樹林を代表する高年齢級天然林の保護。
検討内容	保護林に隣接する林分が拡充可能か否か



調査区域および調査プロット



毎木調査結果

プロット1

No	樹種	本数	本数 (本/ha)	(%)	平均胸高 直径(cm)	胸高断面積 (㎡/ha)
1	モミ	2	50	0.9	6.1	0.06
2	アカマツ	1	10	0.2	24.8	0.48
3	ヒノキ	3	30	0.5	38.1	3.46
4	イヌシデ	6	60	1.1	19.5	1.94
5	クリ	8	80	1.4	23.0	3.64
6	ブナ	1	10	0.2	24.2	0.46
7	コナラ	1	10	0.2	19.4	0.30
8	シキミ	3	75	1.3	5.3	0.07
9	カマツカ	1	25	0.4	6.6	0.03
10	ウラジロノキ	3	75	1.3	16.7	0.70
11	ウリハダカエデ	44	1100	19.6	9.2	3.18
12	アオハダ	2	50	0.9	6.8	0.07
13	ソヨゴ	35	875	15.6	12.1	5.00
14	リョウブ	11	275	4.9	14.8	2.23
15	アセビ	78	1950	34.7	8.2	4.34
16	ミツバツツジsp.	1	25	0.4	5.3	0.02
17	エゴノキ	15	375	6.7	13.6	2.72
18	サワフタギ	11	275	4.9	6.1	0.33
19	マルバアオダモ	1	25	0.4	11.9	0.11
	19種	227	5375	100.0	9.9	29.14

プロット2

No	樹種	本数	本数 (本/ha)	(%)	平均胸高 直径(cm)	胸高断面積 (㎡/ha)
1	モミ	7	175	7.7	13.6	1.13
2	アカマツ	1	10	0.4	23.0	0.42
3	ノグルミ	4	40	1.8	24.4	2.03
4	イヌシデ	4	40	1.8	29.1	3.27
5	クリ	14	140	6.2	26.0	7.99
6	ブナ	4	40	1.8	32.8	7.33
7	コナラ	1	10	0.4	39.7	1.24
8	カナクギノキ	1	10	0.4	24.3	0.46
9	カマツカ	1	25	1.1	7.0	0.04
10	ウラジロノキ	1	10	0.4	26.2	0.54
11	ウリハダカエデ	7	175	7.7	13.4	1.50
12	ソヨゴ	1	10	0.4	21.3	0.36
13	ヘジキ	6	150	6.6	14.0	0.96
14	アセビ	34	850	37.6	8.3	2.04
15	サワフタギ	19	475	21.0	6.4	0.62
	15種	105	2160	100.0	14.9	29.92

植生調査結果

プロット1

階層	植物名	優占度	階層	植物名	優占度
S	アセビ	3	H	アセビ	1
S	ハイノキ	2	H	コアジサイ	1
S	コアジサイ	1	H	サワフタギ	+
S	サワフタギ	1	H	シキミ	+
S	シキミ	1	H	ハイノキ	+
			H	ミゾシダ	+
			H	リョウブ	+
			H	イヌシデ	r
			H	ウリハダカエデ	r
			H	ツタウルシ	r
			H	モミ	r

※小円部、0.01ha内に出現したシダ植物以上記入
階層:低木層=S
:草本層=H

プロット2

階層	植物名	優占度	階層	植物名	優占度
S	アセビ	2	H	ウリハダカエデ	1
S	モミ	2	H	サワフタギ	1
S	アラゲミツバツツジ	1	H	アセビ	+
S	ウリハダカエデ	1	H	コアジサイ	+
S	サワフタギ	1	H	モミ	+
S	イワガラミ	r	H	アワブキ	r
			H	イロハモミジ	r
			H	イワガラミ	r
			H	サルトリイバラ	r
			H	スミレsp.	r
			H	ツタウルシ	r
			H	ハイノキ	r

※小円部、0.01ha内に出現したシダ植物以上記入
階層:低木層=S
:草本層=H

全踏調査結果



林内状況
(503は林小班)



評価結果

項目	評価内容	評価(案)
林分の状態	保護対象種であるブナ、モミの他、アセビ、ウリハダカエデ等が混成する林分であった。	保護林に隣接する503は林小班的林分状況は、保護林の林分状況と類似していると考えられるが、尾根部付近の二次林化している箇所が成林してきたときに景観確保のために切除が地域から要望される恐れがあり、保護林としてしまった場合に切除は困難となることが予想される。
保護対象種の生育状況	健全に生育していることから、良好な生育状況であると考えられる。	
林床植生の生育状況	下層植生にはアセビ、コアジサイ等が生育している。	
気象害	台風等による気象害及び風雪害等は確認されなかったことから、良好な状態と考えられる。	
病虫害	ナラ枯れ等の病虫害は確認されなかったことから、良好な状態と判断された。	
獣害	現状では食害の程度は小さく、植生への影響は少ないと考えられる。	
土壌浸食度	顕著な土壌浸食等が確認されなかったことから、健全な水土保持機能を有しており、良好な状態と考えられる。	

鷹ノ巣山ブナ植物群落保護林の 取扱い方針

設定の基本的考え方

面積は4.04haで、要件の5haを満たしていないが、基本的考え方の⑦その他保護が必要と認められる個体群に該当する。

拡充を検討したが、拡充箇所の尾根部分について、今後地域から伐採要請も考えられることから拡充は見送る。なお、⑦の要件を満たしていることから希少個体群保護林へ移行させる方向で検討する。

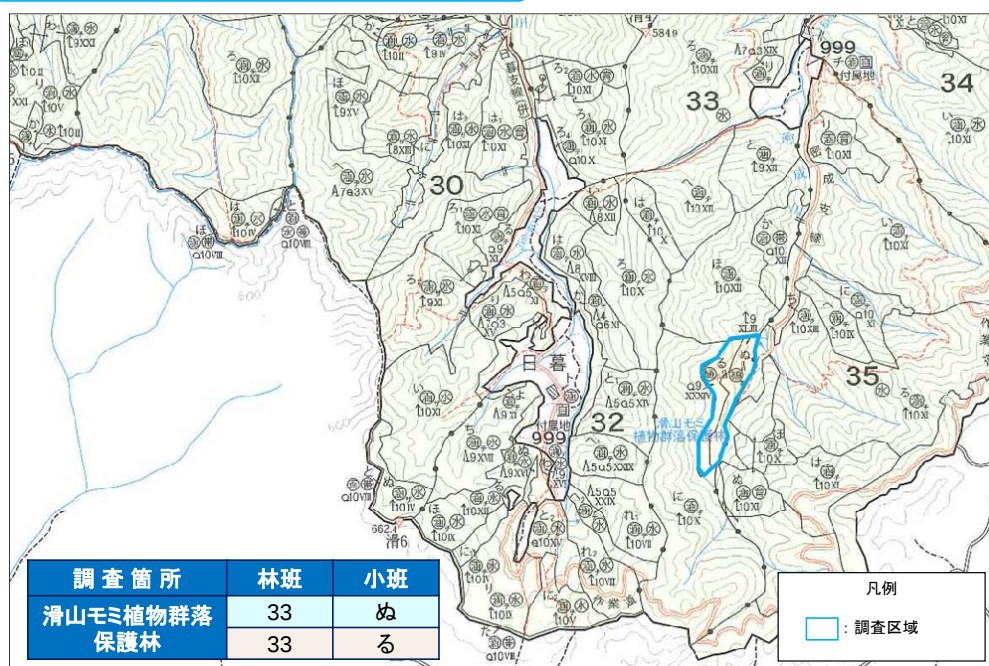
平成28年度保護林区分の見直しに係る調査

滑山モミ植物群落保護林

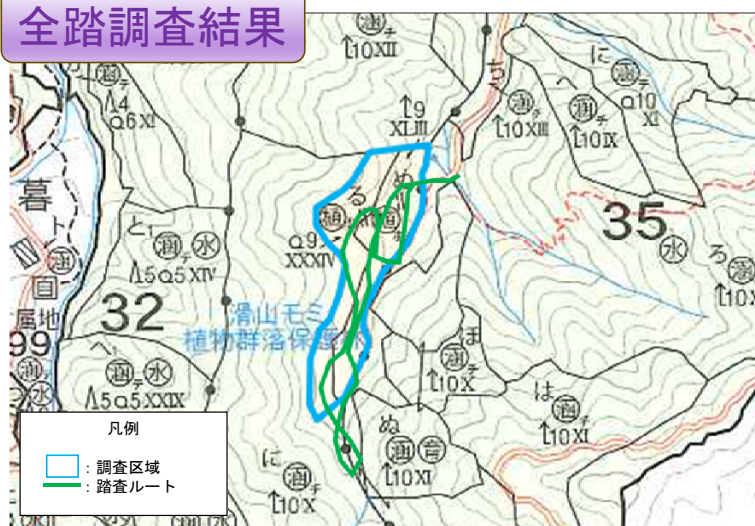


調査地	山口県山口市 滑山国有林
保護林の目的	歴史的、学術的に価値が高いモミの巨木を主体とした林分。
検討内容	保護林林況の確認

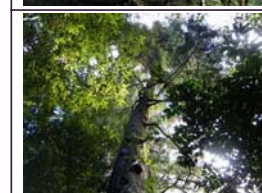
調査区域および調査プロット



全踏調査結果



林内状況



評価結果

項目	評価内容
林分の状態	林分の主要構成種であるモミが高木層～低木層で健全に生育し、生立木本数の増減も小さいことから、健全に遷移していると考えられる。
保護対象種の生育状況	健全に生育していることから、良好な生育状況であると考えられる。
林床植生の生育状況	モミの稚幼樹も確認されたことから、健全に生育していると考えられる。
気象害	台風等による気象害及び風雪害等は確認されなかったことから、良好な状態と考えられる。
病虫害	ナラ枯れ等の病虫害は確認されなかったことから、良好な状態と考えられる。
獣害	ニホンジカ等による獣害は確認されなかったことから、健全な状態であるものと考えられる。
土壌浸食度	顕著な土壌浸食等が確認されなかったことから、健全な水土保持機能を有しており、良好な状態と考えられる。

評価(案)

森林の状況は、平成25年度調査からは大きな変化はなく、本年度においても保護対象種のモミが保護林内の高木層～低木層で健全に生育していることから良好な状態が保たれている。

本保護林は、3.47haと希少個体群保護林の面積要件を満たしておらず、周囲の林相も相違することから拡充できないが、江戸後期(1801年～1829年)に毛利藩がモミの山引苗を植栽した林分で、歴史的、学術的に価値が高い林分であることが評価できる。

滑山モミ植物群落保護林の取扱い方針

設定の基本的考え方

面積は3.47haで、要件の5haを満たしていないが、基本的考え方の⑦その他保護が必要と認められる個体群に該当する。

江戸後期に毛利藩が植栽した人工林で、⑦の要件を満たしていることから希少個体群保護林へ移行させる方向で検討する。

平成28年度保護林区分の見直しに係る調査

鳴川山ウラジロモミ・コメツガ植物群落保護林

調査地	奈良県天川村鳴川山国有林
保護林の目的	大峰山系における代表的なウラジロモミ・コメツガ天然林の保護。
検討内容	保護林に隣接する林分が拡充可能か否か



調査区域および調査プロット

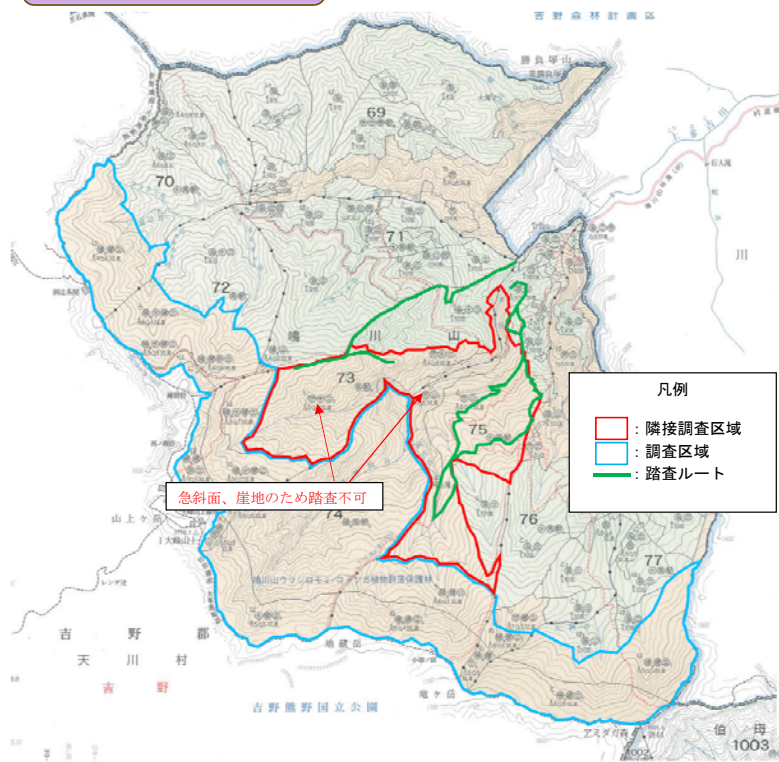
森林の状況(H26モニタリング調査より)

高標高地ではウラジロモミやコメツガの生育が多く、ヒノキ等の針葉樹、ブナ、ミズナラ等の落葉広葉樹が混生しており、下層にはコハウチワカエデ、リョウブ、アオハダ等が生育している。

調査箇所	林班	小班
保護林に隣接する林分	73	い、へ
保護林に隣接する林分	75	と、り



全踏調査結果



平成28年度の林内状況



評価結果

項目	評価内容
林分の状態	保護対象種であるウラジロモミ、コメツガの他、針葉樹と広葉樹が混成する林分であった。
保護対象種の生育状況	健全に生育していることから、良好な生育状況であると考えられる。
林床植生の生育状況	下枝や落葉等の堆積が多く、下層植生の生育がやや貧弱なところも確認された。
気象害	台風等による気象害及び風雪害等は確認されなかったことから、良好な状態と考えられる。
病虫害	ナラ枯れ等の病虫害は確認されなかったことから、良好な状態と考えられる。
獣害	現状では食害の程度は小さく、植生への影響は少ないと考えられる。
土壌浸食度	顕著な土壌浸食等が確認されなかったことから、健全な水土保持機能を有しており、良好な状態と考えられる。

評価(案)

隣接地と林分状況が類似していると考えられるため、拡充は可能であると考えられる。

鳴川山ウラジロモミ・コメツガ植物群落保護林の取扱い方針

設定の基本的考え方

- ①地域固有の生物群集がまとまりを持って存在する森林である。
- ②面積は249. 58haで、拡充すると345. 87haとなり要件の300haを超える。

よって、生物群集保護林へ移行させる方向で検討する。